



与謝野映え @ ちりめん街道

同じ形の謎

MISSION
伊達家住宅、井筒屋、佐々木家、旧尾藤家、なぜか植木の形が一緒である。自分の目で確かめよ!



WANTED

@天満神社



天満神社の境内の建築物にはところどころハートの装飾が隠されているので探してみてもいいかも、まだ誰も見つけていない「Love」や「Happy」が見つかるかも…!? 見つけたら逃さずしっかり射止めよう!



日本遺産「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」

重要伝統的建造物群保存地区



京都府北部の丹後を訪れると、どこからか聞こえてくるガチャガチャという織織りの音。丹後は古くから織物の里であり、江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染色性に優れ、友禅染などの着物の代表的な生地として、我が国の和装文化を支えてきた。この地は今も着物の生地の約6割を生産する国内最大の絹織物産地であり、織物の営みが育んだ、住居と機場が一体となった機屋や商家、三角屋根の織物工場の町並みと、民謡宮津節で歌い継がれた天橋立などの象徴的な風景を巡れば、約300年に渡る織物の歴史と文化を体感できる。

日本遺産のまち

ちりめん街道

古来より絹織物の産地として栄えた加悦の町。1722年に手米屋小右衛門らが京都西陣から「ちりめん」の技術を持ち帰り、丹後ちりめんが大きく発展していきます。この発展により、丹後と京都をつなぐ物流の拠点となり、丹後ちりめんが大きく栄えた住宅や土蔵、縮緬工場、職工宿舎などが一帯となつて存在し、歴史的風致をよく伝える製織町とされています。現在残る町並みは、古いものでは、江戸時代中期、主には明治初期から昭和初期の屋敷が多く建ち並び、丹後ちりめん産業の隆盛を今に伝えている。

重伝建のまち



もっと#与謝野映え

きもので、もっと“映える”

丹後ちりめん本格着物体験
お好きな着物を選んで着付け体験。
ちりめん街道をもっと楽しもう!

大人 14,000円～ 4日前までの要予約
(※オプションあり)

ご利用の4日前までに、観光協会のホームページまたはお電話にてご予約ください。体験当日は、旧尾藤家住宅にて受付・会計をお済ませください。



予約不要ですぐ“映える”

世界に一つ、手作りの“映え”

手織り体験 シルクコースターづくり
卓上手機(てばた)で、手軽に織物をつくる体験です。経糸の張ってある卓上手機に、杼(ひ)を使い絹糸の緯糸を通し織物を丁寧に織り上げます。

組みひも体験 ミサンガづくり
組みひも台に4つの絹糸を巻いたコマをかけ右へ左へ回しながら組みひもを組んでいき、ミサンガを作ります。



詳しくは「与謝野日々」へ!





京都府指定有形文化財 旧尾藤家住宅

一般公開施設



凝ってる尾藤家

豪商建築といわれる旧尾藤家住宅には趣向を凝らしたあしらいがある。その中でも、特に凝っているあしらいをご紹介します。実際に見てみると素敵で、驚きがある。

- J. 窓枠
- K. 2階主室の椅子窓
- L. 永副元文様の格子窓
- M. トイレの扉
- N. 飾り窓枠
- O. 有田焼トイレ



洒落てる尾藤家

細部に遊び心とおしゃれ感が目を引く。先人たちの贅沢の極みではないでしょうか。ランプをつくるす天井に細工されているデザインや排水溝のふたに至るまで、おそらくオートクチュールものが多かったのではないだろうか。



江戸時代の生糸ちりめん商家

ちりめん街道を歩くうえで外せないのが、江戸時代末期文久3年(1863年)に再建された丹後ちりめん商家「旧尾藤家住宅」です。白壁とちりめん格子、土塀の上にさりげなく据えられたガラス製の丸い街灯など、和と洋が融合した独特な雰囲気を楽しめます。

旧尾藤家住宅
与謝部与謝野町加悦1085
☎0772-43-1166
営業 9:00~17:00
休 水曜日(但し休日の場合は翌日休館)
年末年始(12月29日~1月3日)
見学には入館料が必要です

ちりめん街道



与謝野町加悦に所在する「ちりめん街道」は、かつて高級絹織物「丹後ちりめん」で隆盛を極め、京の都と丹後を結ぶ物流の拠点となった場所です。ちりめん産業の発展により、商家が多く建ち並びこの時代の商人の贅を尽くした建物やしつらえは、遊び心と当時の豊かさを象徴しています。町の中に隠れるディティールの美しさを、てくてくきよきよ見つけながら、歩いてみませんか?

アーチが目立つ窓、左右対称の外観



京都府指定文化財 旧加悦町役場庁舎

甲子園球場を設計した、今林彦太郎が設計。レトロですてきな“映え”スポット。



開運パワー

不老・長寿?
10 天満神社の階段を少し上がると吉祥寺と宝蔵寺の屋根近くに「鶴」と「亀」の彫り物が見える。これは天満宮の社を仙人が住むとされた蓬萊山にたとえ、三位一体で不老長寿を物語っている。なんともスケールの大きい先人たちの願いに是非ともあやかるう。

鶴は千年
11 鶴の彫り物
12 亀の彫り物
15 なたてくれても良いのよ
16 かつては屋根の鬼瓦だった壁。

壁に注目

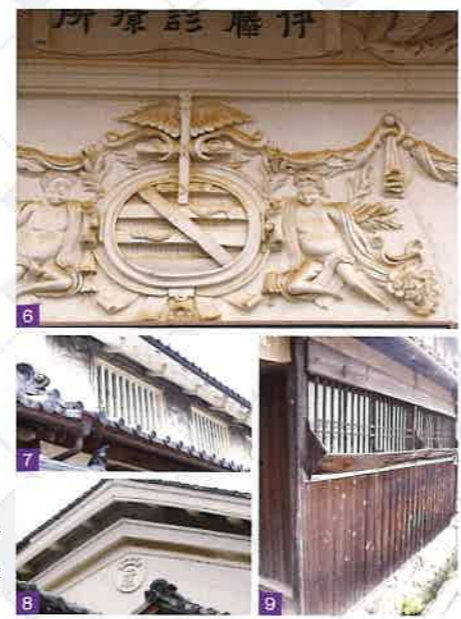
ちりめん街道の家々の壁を見ると土壁、格子、こて絵などいろいろなおもしろい趣があります。親方の白壁に対し子方の土壁というようにさりげなく格の違いを表わしたり、格子の柵の数によって、機屋格子、糸屋格子、織屋格子と職業の違いを表わしたり。白壁の中に黒く塗られたものも。そこにも深い意味が隠されているのだ。

京都北部の風習でもある化粧地蔵。毎年地蔵盆にお化粧を子供たちがします。お地蔵さんの表情は、見方により「ウルトラマン」や「アイシャドー地蔵」に見えるらしい…。

13 「ハート形」や縁起の良い「円」の文字モチーフ。

14 恋愛・良縁?

17 お手洗いの案内



- 6. 旧伊藤医院診療所のレリーフ
- 7. 黒く塗られた白壁
- 8. 旧産業銀行蔵の白壁
- 9. 機屋窓

瓦に注目

大きなお屋敷が建ち並びちりめん街道。瓦屋根にもポイントがあります。鬼瓦といわれる瓦には、同じものが無いのです。代表的な伊達家住宅の「桃」は、古事記にまつわるおまじないで雷よけとされている。鬼瓦のみどころはそれだけではない。各お屋敷、一つとして同じものが無いのは、先人たちの遊び心が詰まっている。



- 2. 鬼瓦「桃」
- 3. 鬼瓦「黒天」
- 4. 鬼瓦「水玉」
- 5. 鬼瓦「亀」

16 かつては屋根の鬼瓦だった壁。